

【週刊タバコの正体】

Vol.37 第11話～第14話

2017/07 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 37

(No. 513) 第11話 ニオイが残る

ーニオイに対する知識も広く浸透して欲しい...

タバコの白い煙は見えなくても、ニオイを感じることはあります。例えば室内の喫煙室は誰もいなくても、タバコのニオイがします。日常的にタバコの煙が充満する部屋には、タバコのニオイが染みついていますからね。

(No. 514) 第12話 売れる商品

ータバコはコンビニの売上の4分の1を占める...

タバコが「人びとの健康」を害するのは明らかで、「百害あって一利なし」とであると認識している人が大勢います。そんな知識を持っている人は、あえてタバコを吸い始めないでしょうが、残念ながら何らかの事情でタバコを吸い始めてしまい、ニコチン依存症になってしまった人も大勢います。ニコチン依存になると毎日タバコが必要となるので、頻繁にタバコを購入しなければなりません。

そこで、左の写真を見てください。ざっと200種類ほどのタバコが、ずらっと並んでいます、わりと見慣れた光景です。そうです、どこのコンビニでもレジ周辺はこんな風になっていますよね。

(No. 515) 第13話 大きな差

ータバコを吸うか吸わないかで経済的にも大きな差がある...

ひとたびニコチン依存症になってしまうと、毎日タバコを吸い続ける生活を送ることになります。言いかえれば、タバコを買い続けなければなりません。いったいタバコ代にどれほどのお金を費やすことになるのでしょうか。

現在、タバコの値段は一箱430円～450円です。毎日買ったとすると一ヶ月で約13000円が必要です。仮に450円のタバコをずっと毎日買い続けたとすると、下図のような金額になってしまいます。年間16万円以上もタバコにつき込んで、何か得るものはあるのでしょうか。

「百害あって一利なし」の言葉のとおり、得るものはありません。それどころか20年、30年も吸い続ければ、そのために病気になるケースはたくさんあります。30年間約500万円をかけてタバコを吸い続けた結果、そのために病気にかかり入院治療を受けたとしましょう。するとその治療費も必要となり、さらに出費が増えるわけです。

(No. 516) 第14話 休憩時間と労働時間

ー喫煙している時間は休憩時間か労働時間か?...

喫煙者は定期的にタバコを吸い続けます。だから、働いている喫煙者は仕事にもタバコを吸う時間が必要になります。

では、勤務中にタバコを吸う時間は、労働時間に含まれるのでしょうか。

ほとんどの職場は受動喫煙を防ぐために禁煙になっているので、喫煙者はタバコを吸うためには職場を離れなければなりません。つまり、厳密に言うと仕事はできないわけです。

そこで、上の例をみてください。勤務中に一日5本吸ったとすると毎日35分の労働時間を失い、それを賃金に換算すると年間31万円にもなるという試算です。

Serial number 513 第11話 週刊 タバコの正体

タバコの白い煙は見えなくても、ニオイを感じることはあります。例えば室内の喫煙室は誰もいなくても、タバコのニオイがします。日常的にタバコの煙が充満する部屋には、タバコのニオイが染みついていますからね。

じつは、タバコの煙の粒子は非常に小さく、その直径は0.01～0.001μm だそうです。目には見えるはずがありませんがニオイは感じるのですから、その粒子は鼻を経由して体内に入っているわけです。だから、タバコ臭い部屋に長時間いると、気分が悪くなったり頭痛がしたりする事もあります。

このように、火のついたタバコの煙ではなく、下図にあるようなニオイを嗅がれる事を「サードハンドスモーク(Third-hand smoke)」と言い、「残留受動喫煙」または「二次喫煙」と呼ばれる事もあります。ちなみに火のついた他人のタバコを吸われる「受動喫煙」は英語で「セカンドハンドスモーク(Second-hand smoke)」と言います。

タバコは、場所によって吸い終わった後も有害物質が残っています。タバコの健康被害をなくすために、この事もしっかり覚えておいて下さい。

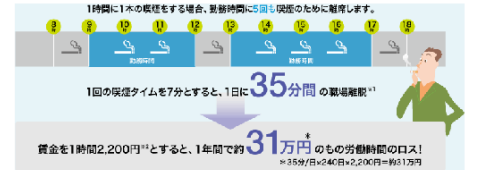
産業デザイン科 奥田 恭久



Serial number 516 第14話 週刊 タバコの正体

喫煙者は定期的にタバコを吸い続けます。だから、働いている喫煙者は仕事にもタバコを吸う時間が必要になります。では、勤務中にタバコを吸う時間は、労働時間に含まれるのでしょうか。

ほとんどの職場は受動喫煙を防ぐために禁煙になっているので、喫煙者はタバコを吸うためには職場を離れなければなりません。つまり、厳密に言うと仕事はできないわけです。



そこで、上の例をみてください。勤務中に一日5本吸ったとすると毎日35分の労働時間を失い、それを賃金に換算すると年間31万円にもなるという試算です。

いかがでしょうか。もしあなたが将来、会社を経営する立場になったとしたら、この事態をどう考えようか。一番上のイラストのように「タバコは休憩時間以外禁止」と言いたくないですか。しかしながら、長時間タバコを吸えない喫煙者にとっては、そのような状況になると、ニコチン切れによるストレスが大きくなり、作業効率が低下することが予想されます。会社経営にとっては難しい問題です。

じつは最近、この問題を解決するために、「喫煙者は採用しません」とする企業が増えているのです。これから就職する君たちは、こんな事情も知っておいて下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久



毎週火曜日発行



URL: http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

